

## 議長記者会見（第30回）会見録

日時：平成30年9月27日（木）

午後2時15分から

場所：石川県議会議事堂

議長応接室



会見を行う作野議長（右）と焼田副議長（左）

私ども正副議長として2回目の議会を無事終了することが出来ました。これも関係の皆さま方のご理解とご協力のおかげだと思っております。

初めに、先月、珠洲市におきまして「第17回日本スカウトジャンボリー」が開催されました。皇太子殿下のご臨席を賜りまして、国内外から1万3千人余の参加を得て、盛況に無事終了いたしました。

皇太子殿下におかれましては、各地で多くの県民に慈愛に満ちた優しいお言葉をおかけいただきお姿が印象的でありましたし、県民の皆様方の心に深く刻まれたものというふうを考えており、深く感謝を申し上げる次第でございます。

今年の夏は、全国各地で大きな自然災害が相次いで発生しました。西日本を中心に大きな被害をもたらしました「平成30年7月豪雨」、近畿地方を中心に大きな被害をもたらしま

した台風21号、さらには、最大震度7を記録しました北海道胆振東部地震など、全国各地で甚大な被害が発生いたしております。

また、本県においても、能登地方を中心とした大雨や台風21号により、被害が発生しております。

この度の災害により、お亡くなりになられた方々の御冥福をお祈りいたしますとともに、被害に遭われた皆様方に対し心からお見舞いを申し上げます。

それでは、本定例会を終えての所感を述べさせていただきます。

## 1 今定例会を振り返って

今ほどもお話しをしましたように、本県も含め、全国各地で自然災害による被害が相次いで発生いたしております。議会でも、西日本の豪雨災害を踏まえた今後の事前対策、河川氾濫・土砂災害対策、洪水浸水想定区域図の整備、住民避難対策、さらには災害廃棄物対策など、多岐にわたる質問が数多く出ました。

議会としても、執行部とともに県民の安全・安心の確保にしっかりと取り組んでいきたいというふうに思います。

今年の夏は自然災害ばかりでなく、日本人選手の活躍という明るいニュースもありました。ワールドカップサッカー日本代表チームの活躍に始まり、本県出身の選手も活躍したアジア大会、さらには大坂選手の全米オープンテニス優勝など、このようなニュースに日本中が沸き、ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックに向け、一層気運が高まったと感じております。

議会でも、東京オリンピック・パラリンピックの聖火リレーについての質問がなされ、県内全市町を回るルートで実施する方針が示されましたところであります。

我々議会としても、多くの県民がこの聖火リレーを目に出来るよう、執行部と議論を積み重ね、東京オリンピック・パラリンピックを盛り上げてまいりたいと思います。

このように気運が高まってきたラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックを追い風にいたしまして、更に海外誘客に取り組む必要があることから、議会でも能登への誘客、中国からの誘客拡大などの質問が出ました。

我々議会としても、正に今が千載一遇の好機と捉えて、海外誘客の更なる拡大につながるよう執行部としっかりと取り組んでまいりたいと思っております。

海外誘客、国内の観光誘客の促進には、県内の2空港の安定的な運用が大きな鍵を握ることから、議会でものと里山空港の好調な搭乗率の維持、小松・上海便の拡大などの質問もありました。

議会としても、執行部とともに県内2空港の利用促進にしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

また、2023年春の敦賀開業、更には2030年度末のフル規格による全線開業を目指す北陸新幹線については、これまでも議会で数多くの議論をしてまいりました。

今回の議会でも、政府・与党に対するフル規格全線整備と財源確保策の働きかけや、敦賀開業に伴う並行在来線の在り方についての質疑がなされております。

議会としても、関係自治体や執行部とともにフル規格による全線開業、また並行在来線への円滑な移行にしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

そして、県立中央病院に導入されたドクターヘリは今週24日に運行開始となったことから、今議会ではドクターヘリにかける知事の思いや、奥能登の医師不足など、救命救急体制についての質問がありました。

議会としても、県民の安全・安心の確保を担う使命を、今後十分に果たしていけるよう、執行部とともにしっかりと支えてまいりたいと思っております。

執行部においては、今定例会での議員からの質問の趣旨を踏まえた上で、今後の施策の実行に取り組んでいただきたいと思います。

次に、今定例会中に可決された意見書等についてであります。

「意見書等調整会議」におきまして、調整された結果、各会派から提案のあった13件の意見書等のうち、「国及び地方自治体における障害者法定雇用率の早期達成を求める決議」など11件が可決されました。

可決された意見書については、議会としていずれも国へ要望するものであり、国会及び関係行政庁へ提出することとしております。

また、先月21日、22日に「ふれあい親子県議会教室」を開催いたしましたところ、募集定員を上回る多くの方に応募いただきました。

今年度で5回目となりますが参加した皆さんには好評であり、大変よかったと思っております。

最後に韓国・全羅北道議会及び台湾・台南市議会への友好交流訪問については、本県議会と友好交流に関する協定等を締結している韓国・全羅北道議会に来週10月3日～5日まで、また台湾・台南市議会には、10月7日から10日までの日程で私と本県議会議員団が訪問いたします。

訪問では、それぞれの議会議員と情報交換を行うなど交流を深めまして、両議会との友好関係の発展を図ることとしております。

私からは、以上であります。

## 2 質疑応答

記者

先ほどおっしゃられたとおり、今年の夏は本当に自然災害が多くて、今週末も大きな台

風が列島を縦断するのではないかとの報道もあります。こうした中で県民の皆さんが一番気にしているのは、多分「自分の近くの川が氾濫するのではないか」とか、「氾濫したときどうしたらいいのか」と言ったところが、やはりすごく気になると思います。住民の皆さんがしっかり避難出来るように、また、情報がしっかりと皆さんの手の届くようにというところを執行部の皆さんともっともっと詰めていかなければという部分があると思うのですが、情報の発信の仕方、受け止めの仕方、そういうところについて、どのように今後、議員の皆さん達で議論を深めていくのかというところをお聞かせいただければと思います。

#### 作野議長

一番身近なのは、住まいをしている町内会、避難所もありますので学校単位の地区、公民館、その上にあるのが市町で、情報を把握し真っ先に流すのは、市町が地理にも詳しいので一番早いだろうと思います。

今、日本全体を見ていて、何となく情報を発信する方も試行錯誤というところがあったり、受け止める方も、まだまだ危機意識がなくて、情報を流しても実際に避難するのは数パーセントみたいな話なのですね。情報も避難準備とか、勧告とか、いろんな情報があり、それ自体の意味もなかなか理解されていないのが実態ですよ。その辺のコミュニケーションというか、情報交換というものがまだまだ足りないような気がしています。

そのようなことは、町会単位で住民に説明をしないと無理なのですよ。町会は県内に3千も4千もあるので、県が全部するわけにはいかないの、市町が地区の公民館や町会に下ろして町会長さんなどが説明して、市町で人が足りなければ県の危機管理の部署がお手伝いを、人を派遣して、地域には防災士もいますので、そんな人たちを利用しながら顔を見ながらペーパーで説明、周知していくということが一番早いような気がしますね。

町内会なら、当然、そこに河川があるのかないのか分かります。河川のない所に行って洪水のことを言っても話になりません。山に近い所は山に近い所の災害の危機意識を持っていただくとか、河川に近い所は河川だとか、住宅が密集している所は火災だとか、避難経路だとか、道幅が狭いだとかいろいろあると思います。そういった地域に応じた危険について市町や地区、町会、一番分かっているのは町会だと思うので「こうなったらどうする」ということを住民が互いにコミュニケーションをとっていかなければいけないだろうと思いますね。ただ、町会単位だと余りにも多すぎて、県は市町にそのように「周知してね」と言うことしか出来ないでしょうね。

#### 焼田副議長

何が今までにあったかということは、地元の人たちがやはり一番詳しいですからね。

でも、最近よく聞かれるのは、何十年に一度とか最近訪れていないような災害、想定外の被害がよくあるので、やはりその辺りを、一番分かるのは地元の人だろうから「大雨に

なったらいつもここが溢れる」とか、「過去にここが崩れたことがある」とかというような情報を地元から上げていただいて、私らも町議とかから地元の要望をいただいて県政の中で言っていく。そして、それを上に伝えて予算措置を打ってもらわないとやはり公共事業の大きな予算を取っていただかないと、共産党の佐藤さんも知事に迫っていたように予算措置がきちんとないと県も何も出来ないと思うので、声を上げていただいて、積み重ねて、届けて予算を打ってもらうと言うことが一番大事だと思います。

記者

地元の人たちは、地元のどこが危ないということがよく分かっていて「やっぱりあそこが決壊したか」と、そういう所の情報を上げてやっていくということですね。

作野議長

先ずは逃げることに、逃げることに第一だ。

記者

確かに、本当にそうですね。

作野議長

直すことは日本全国至る所にあつて心配をしてもきりがないので、それは並行して対応していかなければならないが、先ずは逃げることを周知徹底しなければならぬよね。

焼田副議長

最近、携帯電話で雨雲の情報とかが、結構詳しく見られますよね。そういうものを上手く利用して「そろそろ迫ってきたな」と自然に情報をキャッチ出来るようにしてほしいですね。

記者

逃げるという意識づけが大事だということですね。

ありがとうございます。

記者

来月、韓国・全羅北道と台湾・台南市に行かれるということですが、それに対する意気込みと申しますか、どういった成果を出せればと考えていらっしゃいますか。

作野議長

韓国・全羅北道とは長い歴史の交流があるわけでありまして、民間の方も結構行ったり

来たり交流をしています。議会も毎年、去年はこちらに来られて、今年はこちらが行って友好関係を深めたいと思っています。

議会だけでなく、当然、民間団体も活動しているわけでありまして、民間団体の方々が交流しやすいように、議会もその中に率先して入って、友好関係がギクシャクしないように滑りを良くしていく部分が大きな仕事かと思えます。

台湾・台南市は、実は7月に訪問する予定だったのですが、台風で延期になりまして、ようやく先方の議会と調整が出来ました。前回訪問が延期となったので、気持ちは非常に意気込んでいまして、早く行きたいなと思っています。